

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 204

■ 2023 年度カーボンニュートラル対応技術動向講演会

2020 年 10 月、政府は 2050 年までに、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いた合計を実質的にゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。2050 年までにカーボンニュートラルを達成するためには、各企業での大幅な CO₂ 等の排出削減が必要となります。

次世代自動車センター浜松では、このたび、中小企業でのカーボンニュートラルへの取り組みの参考としていただくため、カーボンニュートラル対応の考え方、進め方、具体的な取り組み事例など、参考になる情報を得られる機会として、先進的な取り組みが行われている旭化成株式会社様、住友電気工業株式会社様にご講演をいただくとともに、望月センター長から、中小企業でのカーボンニュートラル対応の取り組み事例報告を行う「カーボンニュートラル対応技術動向講演会」を開催しました。

■ 日 時 : 令和 5 年 9 月 26 日 (火) 14 時～17 時

■ 場 所 : グランドホテル浜松

■ 参加者 : 92 社/142 名

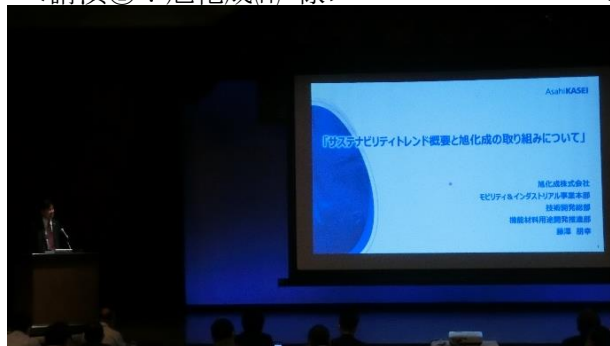
<開会>



<主催者挨拶>



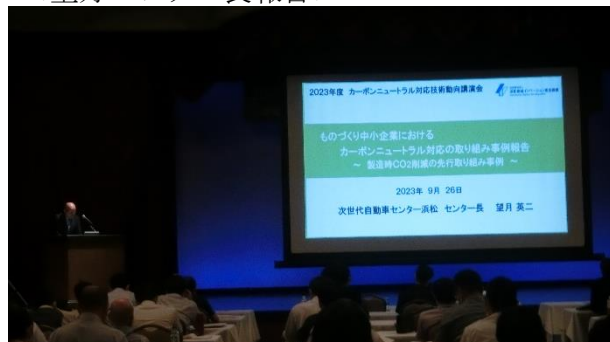
<講演①: 旭化成(株) 様>



<講演②: 住友電気工業(株) 様>



<望月センター長報告>



<質疑応答>



【参加者の声】

○講演①

- ・サステナビリティに関連した世界動向などから、分かりやすく現在の潮流などの全体像を知ることができて、参考になった。
- ・サステナビリティ世界トレンド概要の中でお話いただいた国内外の自動車業界の戦略について、とても見やすく参考になった。
- ・C N法規制等の高次な話の概要についての丁寧な説明が良かった。旭化成のような大手企業での取り組みが、追従する企業にとっては戦略上重要なため参考になった。
- ・CFP 可視化システムを独自で開発するなど、可視化には様々な手法があり、サプライヤーにも求められる現状把握(可視化)項目も業務によって様々であることを改めて理解した。
- ・リサイクル率を高めた材料を今後どのように活用していくのか参考になった。
- ・材料メーカーとして、サーキュラーエコノミーに取り組む考え方が参考になった。
- ・事業規模が桁違いなので感心することしかなかったが、今年に入って取り組み始めていることがサステナビリティの取り組みとして正しいと分かったので、方向性の確認ができてよかった。

○講演②

- ・C Nをビジネスチャンスと捉えた企業計画、分析を行っていることが参考になった。材料系企業の強さを感じた。
- ・創エネ、購エネのどちらか一方のみに注力するのではなく、組み合わせでネットゼロ実現ということで、実現可能性の高い取り組みだと思った。また、切削工具一つで生産効率が大幅に変わることに驚いた。
- ・製造業として分かりやすかった。洋上風力・地熱利用については興味深かった。
- ・サステナビリティ経営は、社長自らが先頭に立ち、行わなければならない。中小企業も大企業に倣って、様々な活動を行わなければならないと感じた。
- ・住友電工グループ全体でC N対応をされていることが理解できた。CO₂削減取り組みとしての施策をしっかりと検討され、目標に向かって様々なアプローチをされている。
- ・CO₂削減目標と具体的な取り組み事例についてとても分かりやすい内容だった。削減活動で、省エネ、創エネ、購エネで目標を設定する活動が大変参考になった。

○センター報告

- ・中小零細企業目線での内容で大変分かりやすく、事例報告は大変参考になった。
- ・省エネの進め方5ステップ、改善事例等を説明していただいたおかげで、イメージがしやすかった。
- ・CO₂削減に取り組むことのメリットについて理解することができた。先行取り組み事例は、とても身近な具体例が多くあり、参考になった。
- ・C N活動の基本から事例報告を分かりやすく説明され、社内、仕入先への展開の参考となった。
- ・自社社員への説明や理解確認等における今後の活動のヒントとなり、とても勉強になった。
- ・建物別、設備別などのエネルギー使用量の可視が重要であることを理解した。
- ・CO₂削減活動の基本的な考え方、見える化(可視化)最小化の取り組み、具体事例などとても分かりやすい説明で、今後のCO₂削減活動に早速活かせればと感じたご説明だった。
- ・C Nへの取り組みとして、見える化・削減目標の設定・減らす活動(省エネ)の3つの大きな活動が削減効果につながると理解できた。